

本時のねらい

- 冬を感じる言葉を自分の経験から考えることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- 冬の言葉を「くまでチャート」に整理することにより、アイデアを組み合わせる考えを作り出すことができる。その際、視点を設定することで、言葉を分析し、作文の内容が考えさせやすくなることをねらいとした。
- 児童の考えをクラウド上で共有することにより、他の児童のアイデアも参考にすることができ、考えが広がるとともに、支援が必要な児童のサポートにもなることをねらいとした。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- 授業支援ソフト（ロイロノート）
- 大型モニター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○冬の言葉について振り返る。 ○学習課題をつかむ。 「冬をかんじることばを見つけよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にロイロノートに集めた言葉を確認する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○冬の言葉を分類・整理する。 ・シンキングツール（Xチャート）を活用し、言葉の分類・整理をする。 ○冬の言葉を1つ選び、イメージできることを広げる。 ・シンキングツール（くまでチャート）を活用し、選んだ言葉から連想される言葉を書き出す。 ・同じ班の児童のチャートにヒントになるように言葉を付け足す。 ・もらったヒントを踏まえて、個人で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有ノートを用いてXチャートを集めた言葉とともに共有し、班で協働的に活動する。 ・児童それぞれに使用するカードの色を指定し、だれのカードなのかを視覚的にわかりやすくする。 ・端末を活用することで、試行錯誤が容易に行えるようにする。 ・共有ノートを用いて、班員のチャートを共有することにより、自分の端末でヒントを付け足すことができるようにする。また、1人1人のカードの色を決めておくことで、もらったヒントが一目でわかるようになる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○連想される言葉を考える中で感じたことを、手を挙げて発表する。 ○次時の予告 	

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：Xチャートを活用し、言葉の分類・整理をする場面



写真2：くまでチャートを活用し、選んだ言葉から連想される言葉を書き出す場面



写真3：同じ班の児童のチャートにヒントになるように言葉を付け足す場面

児童生徒の反応や変容

- 季節の単元ごとに同様の形式で活動を進めたことで、操作に手間取る児童が減り、その分言葉の連想に意識を集中することができていた。そのため、個人で考えるときも、班員にヒントを書く時も、思いつく言葉の量が回を重ねるごとに増えていた。
- 共有ノートを用いて協働的な学習形式をとったことで、それぞれの考えを相互に見合いながら活動することができた。そのため、他の児童との競争心が学習意欲の向上につながっている児童や、他の児童の考えをもとに自分の考えを広げている児童の様子が見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

班で活動させる際に、それぞれのテキストカードの色を指定し、区別したことで、自分のカードが分かりやすくなり、誤ってほかの児童のカードを触ってしまうというトラブルも減った。また共有ノート内で一つのカードに4つのくまでチャートを色分けして配置したことで、他の児童のカードと区別しやすい上に、他の児童の考えをすぐに見ることができ、考えの手立てとすることができた。